



# 布の絵画BORO

～美しいぼろ布展～

一般1,080円/大・高生864円/中・小学生540円/未就学児無料  
開館時間 10:00～18:00(最終入館は17:30) 毎週月曜休館(祝日の場合は翌火曜)

布文化と浮世絵の美術館  
**アミューズ ミュージアム**

TEL 03-5806-1181  
〒111-0032 東京都台東区浅草2-34-3  
<http://www.amusemuseum.com>



## 布の絵画BORO ~美しいぼろ布展~

そんなに昔のことではありません。

かつては日本でも自分や自分の家族の衣類を、一家の女性たちが自ら作り、管理することは日常でした。暖房などないに等しい時代、冬の寒さは過酷で、着ることは食べること以上の死活問題。小さな布の切れ端や糸屑さえも大事な財産でした。

一着の着物を何世代に渡って着ることなどは当たり前で、綻びにはツギを当て、過酷な寒さから身を守るために粗い布をどんどん重ね合わせ、刺し子を施して補強し、それでも使えなくなった着物は細く裂いて、それで再び新しい布を織ったのです。

BOROはいま、世界のアートシーンで通用する言葉になりつつあるといえます。

BOROは「ぼろ」です。文字通り、着古してボロボロになった着物や布のことですが、とても見事で迫力あるものです。大切な布を少しでも長持ちさせるためにつけられた膨大な手間と時間。かけがえのない家族のために培われた手仕事の技術と美的感覚。それは図らずも複雑なパッチワークを成し、経年の趣をまとい、消費文明の対極の圧倒的な布文化を生み出しました。

それらは言葉を持ちません。しかし私たちは感じます。

針目の一つ一つに、大切に繕われた布の温もりに、垣間見えるお洒落心に、どんなに貧しく過酷な境遇にあっても、優しさを抱き、人を愛し、豊かに生きた人々の心を。

物を作り、慈しみ、使い切る充足感と、困難に負けない真の力強さを。

粗末なぼろ布にあらわれた、思いがけない美の世界が、現代を生きる我々に根源の問いを突き付けているようです。

## 布文化と浮世絵の美術館 アミューズミュージアム

開館時間 / 10:00~18:00 ※最終入館は17:30 毎週月曜休館(祝日の場合は翌火曜)

一般1,080円 / 大・高生864円 / 中・小学生540円 / 未就学児童無料 / 一般団体料金864円(15名以上)

〒111-0032 東京都台東区浅草2-34-3 TEL.03-5806-1181 <http://www.amusemuseum.com/>



東京メトロ銀座線・東武伊勢崎線「浅草駅」から徒歩5分

都営浅草線「浅草駅」から徒歩8分

つくばエクスプレス「浅草駅」から徒歩8分

※駐車場はございません。お車で来館される方は近隣の駐車場をご利用下さい